



# 安川電機 (6506)

## 2006年3月期決算説明会：要約版 (2006年5月9日)

取締役社長 利島 康司

- 1 . 2006年3月期決算概要 … P 1- 6
- 2 . 2007年3月期の見通しと取り組み … P 7-10

# 当社の事業概要および名称

## システムエンジニアリング：(S)

2005年度売上 419億円

【主要製品】  
上下水道用電気計装システム  
鉄鋼プラント用電機システム、新システム機器等

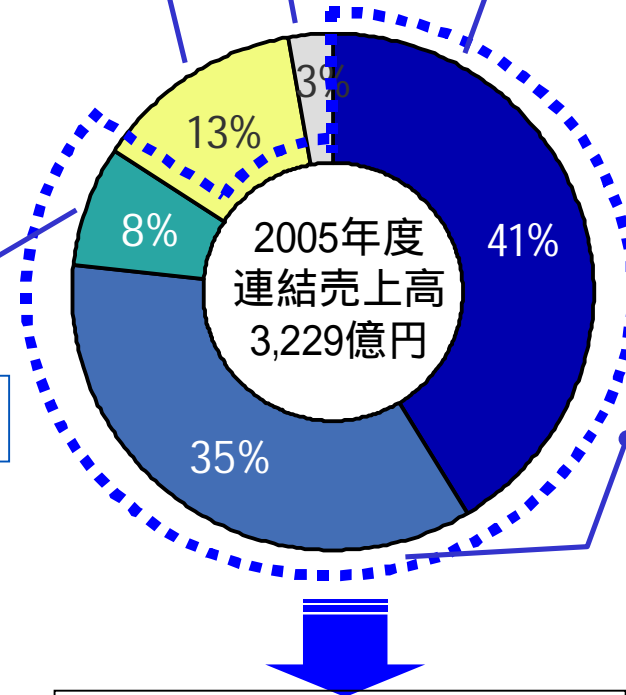
【主要子会社】  
・安川モートル

## 情報 (東証2部上場の2社で構成)

2005年度売上 247億円

【主要子会社と製品】  
・ワイイーデータ  
レーザー応用システム  
コンピュータ周辺機器 等  
  
・安川情報システム  
情報処理ソフト・サービス

その他



**当社のコア事業である  
メカトロ事業に注力  
(売上高の84%)**

メカトロ事業とは、モーションコントロール、ロボティクスオートメーション及び情報の各セグメントを指す。

## モーションコントロール：(M)

2005年度売上 1,339億円

【主要製品】ACサーボモータ、コントローラ、リニアサーボ、インバータ等

【主要子会社】  
・安川エンジニアリング  
・安川コントロール  
・米国安川電機 (米国)  
・欧州安川電機 (ドイツ)  
・安川電機(上海)有限公司(中国)



## ロボティクスオートメーション：(R)

2005年度売上 1,134億円

【主要製品】  
・INR (産業用ロボット)：アークスポット溶接・塗装ロボット、フラットパネルディスプレイ (FPD) 搬送ロボット  
・SER (半導体製造装置用ロボット)：半導体製造装置用クリーン・真空ロボット等

【主要子会社】  
・モートマン (米国)  
・モートマンロボティクスヨーロッパ (スウェーデン)  
・モートマンロボテック (ドイツ)  
・シナティクスソリューションズ (米国)



2006年度から「ロボット」に呼称変更

# 2006年3月期決算のポイント

---

## 1. 2期連続で過去最高の業績を達成

売上高3,229億円、営業利益244億円、経常利益243億円

いずれも前年度に続き過去最高を更新。当期純利益(101億円)も過去最高を更新

## 2. (M)高付加価値化の成果により、利益率10%が視野に

売上高: 1,339億円 前年同期比8.9%増(同110億円増)

営業利益: 122.7億円 前年同期比34.6%増(同32億円増)

営業利益率: 04年度7.4% 05年度9.2%

## 3. (R)自動車向けおよび海外の拡大と生産強化により収益性改善

売上高: 1,134億円 前年同期比7.9%増(同83億円増)

営業利益: 98.5億円 前年同期比35.3%増(同26億円増)

営業利益率: 04年度6.9% 05年度8.7%

## 4. (S)構造改革により単独黒字回復を達成

連結では2.5億円の営業赤字と課題を残した

## 5. 海外各地域とも拡大し、海外売上高比率は47%まで上昇

海外売上高: 1,513億円 前年同期比16.2%増(同211億円増)

海外売上高構成比率: 04年度42% 05年度47%

# セグメント別連結業績概要

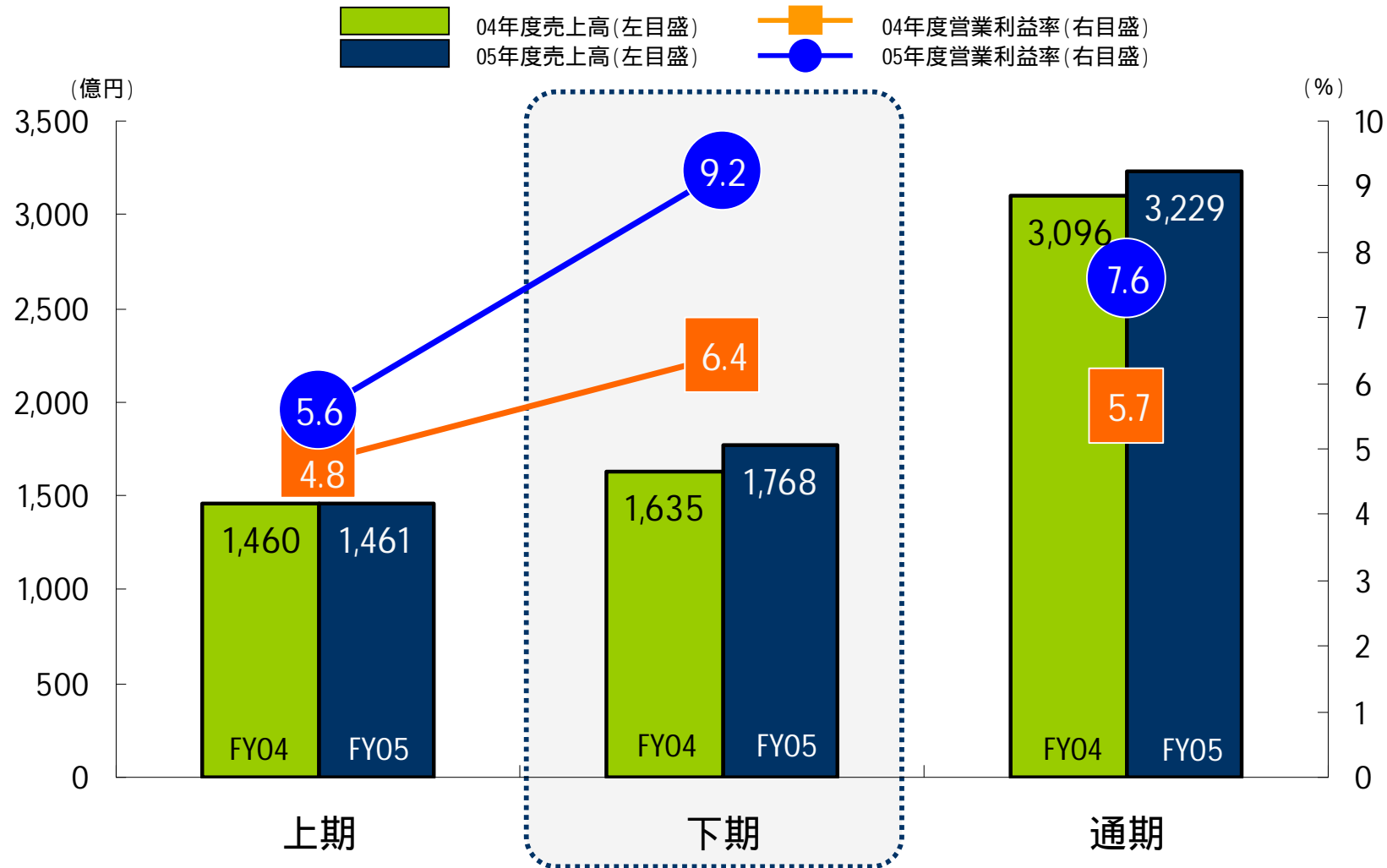
(M) (R) は売上高・利益ともに伸長し、過去最高を更新  
 (S) は構造改革により、減収ながら利益は大幅改善

(単位: 億円)

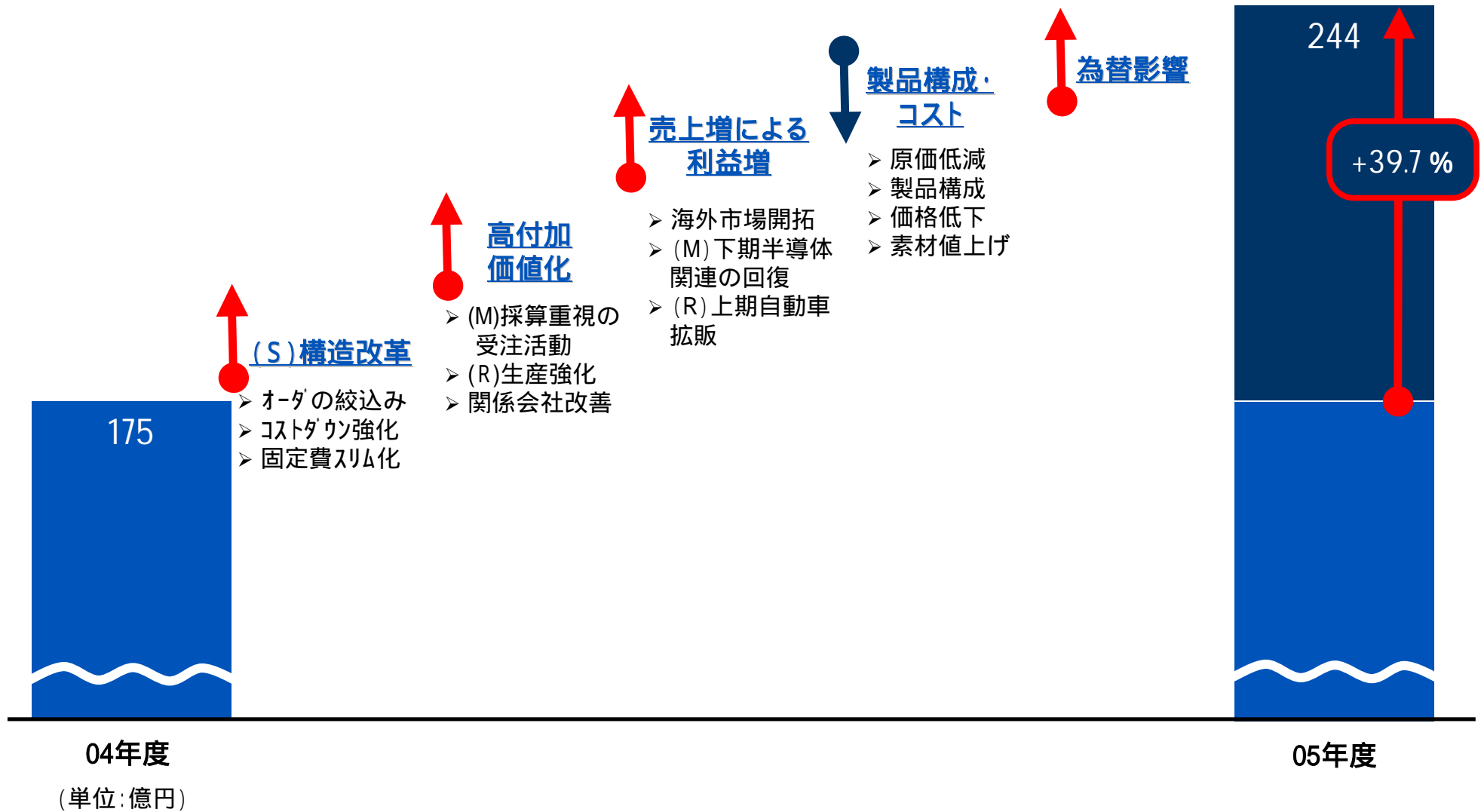
	05年度		04年度		増減額	増減率
		利益率		利益率		
売上高	3,229		3,096		+133	+4.3%
(M)	1,339		1,229		+110	+8.9%
(R)	1,134		1,051		+83	+7.9%
(S)	419		449		30	6.7%
(情報)	247		254		6	2.5%
営業利益	244	7.6%	175	5.7%	+70	+39.7%
(M)	122	9.2%	91	7.4%	+32	+34.6%
(R)	98	8.7%	72	6.9%	+26	+35.3%
(S)	2	0.6%	20	4.7%	+18	n.m.
(情報)	10	4.2%	15	5.9%	5	30.5%
経常利益	243	7.5%	174	5.6%	+69	+39.7%
当期純利益	101	3.1%	18	0.6%	+83	+444.6%

# 連結売上高、営業利益の推移

## 高収益化が進展し、下期の営業利益率は9.2%まで改善



# 営業利益増減要因分析(2004年度 2005年度)



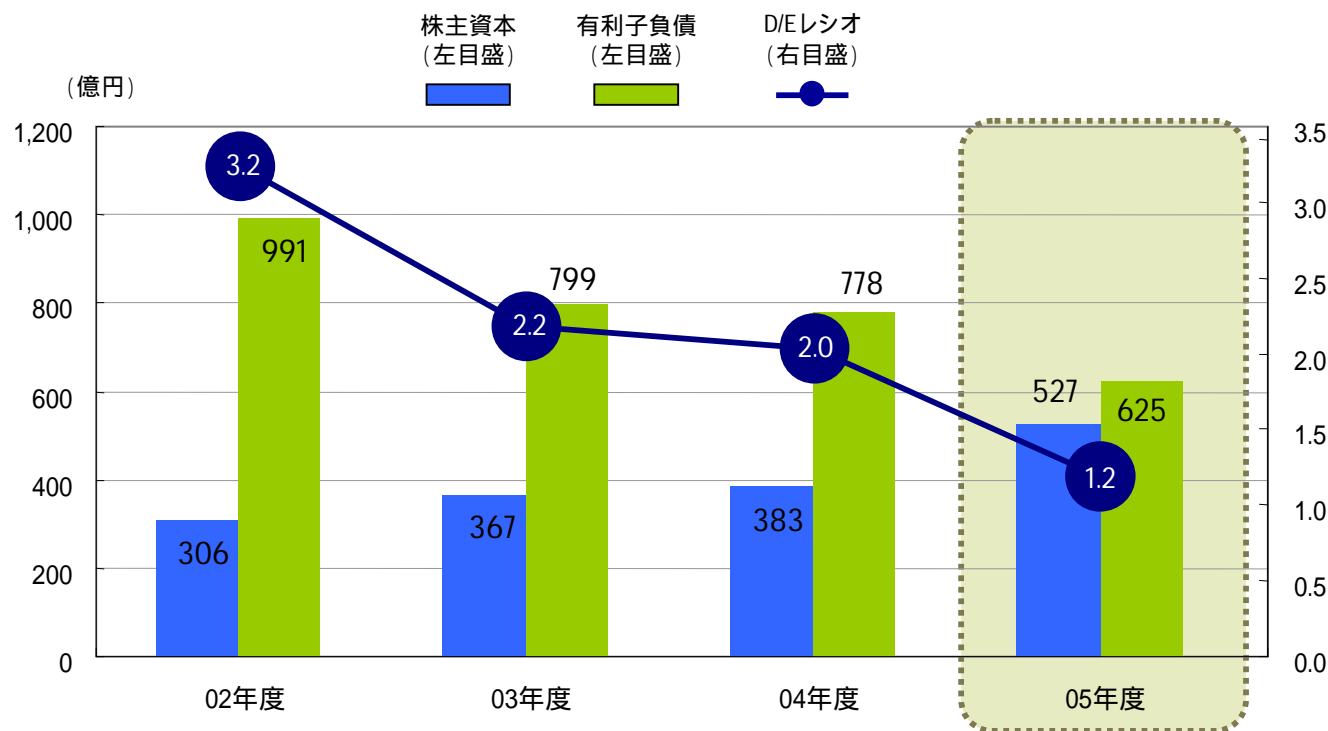
# B / S 構造改革 (連結)

## 2005年3月期

- D/Eレシオ 2.0
- 有利子負債 778億円
- 株主資本 384億円
- 棚卸資産 526億円  
(回転月数) (2.0ヵ月)

## 2006年3月期

- D/Eレシオ 1.2
- 有利子負債 625億円
- 株主資本 527億円
- 棚卸資産 581億円  
(回転月数) (2.2ヵ月)



# 2006年度連結業績見通しのポイント

## 1. 成長機会の最大化を図り、3期連続で過去最高更新へ

売上高	3,400億円 (前期比 5.3%増)	
営業利益	275億円 (前期比12.3%増)	
経常利益	275億円 (前期比13.0%増)	
当期純利益	120億円 (前期比18.1%増)	2期連続

## 2. (M) 利益体質を継続・改善しながら売上拡大を追求

## 3. (R) 自動車・液晶の回復を確実に捉え、業績拡大を持続

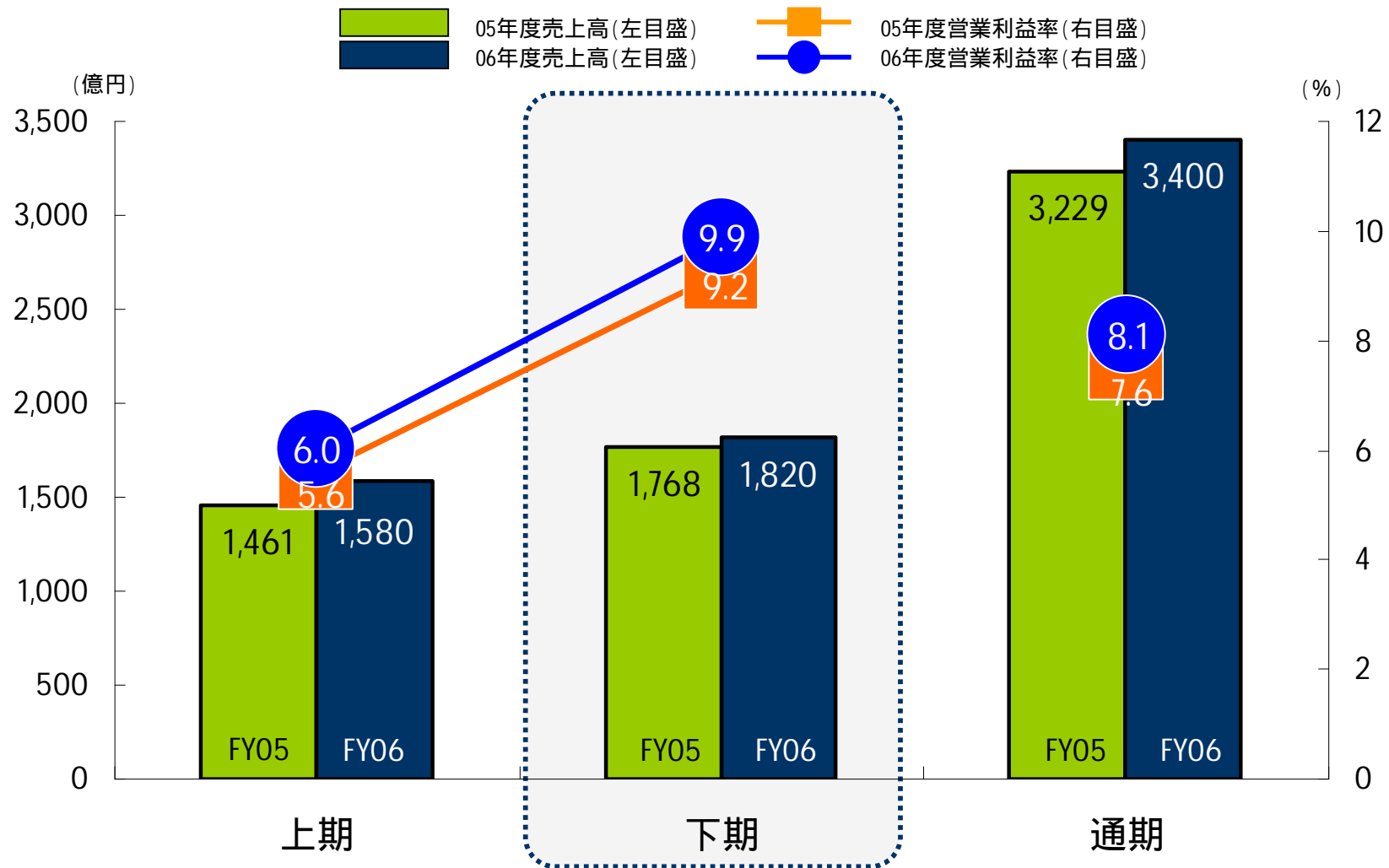
## 4. (S) 利益率5%に向け、構造改革の総仕上げ

## 5. 中間配当制度導入。中間配当3円 + 期末配当3円予定

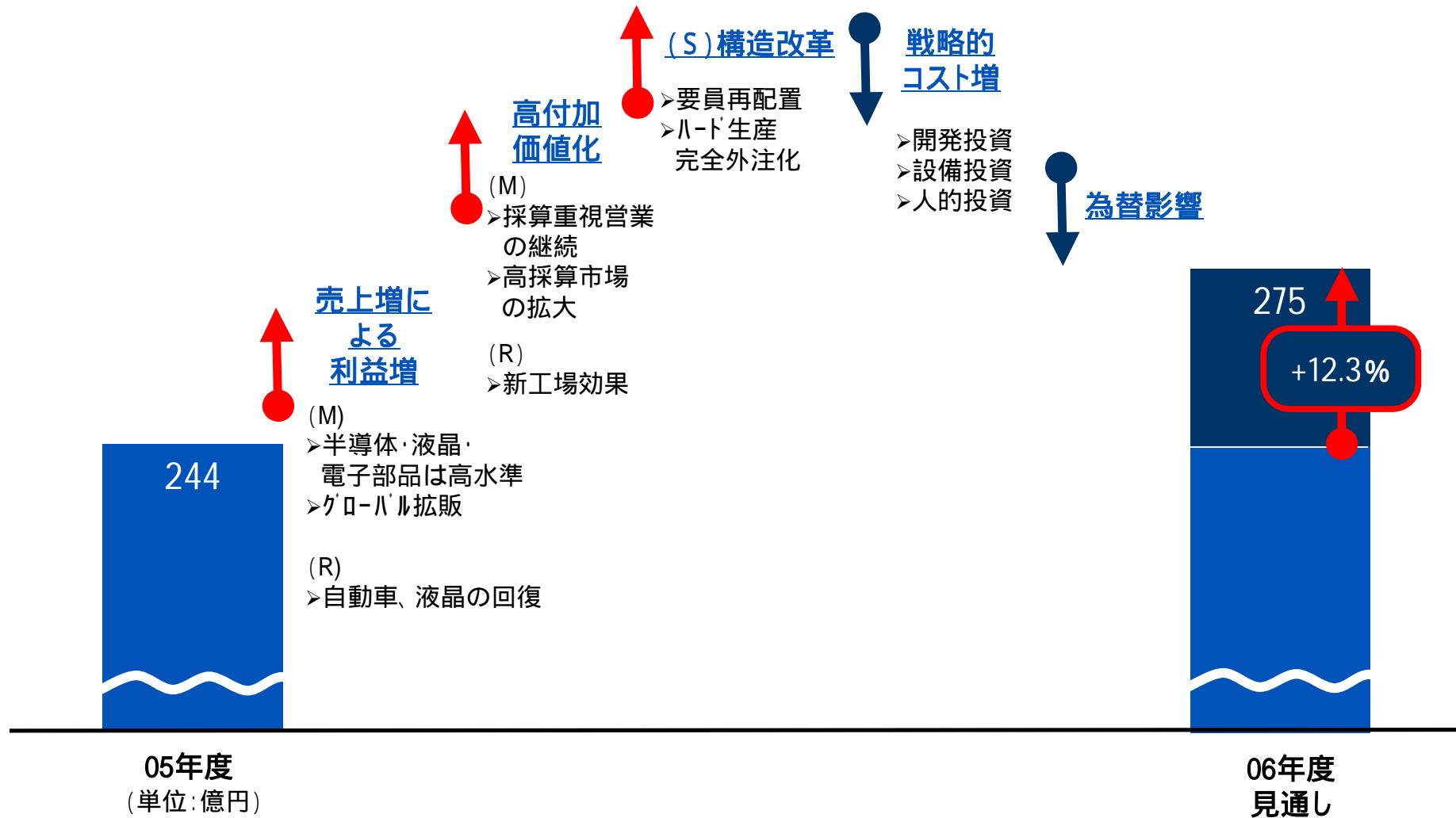


# 2006年度の連結業績見通し

## 下期営業利益率は9.9%まで改善する見通し



# 営業利益増減要因分析 (2005年度 2006年度)



# リスク要因

## 為替相場の変動

海外における事業活動強化に伴い、2006年3月期の海外売上高比率は47%まで上昇しており、今後も海外比率が高まることが想定される。そのため、為替相場の動向によっては、当社業績に悪影響を及ぼす可能性がある。

(ご参考) 2005年度為替実績 1ドル = 112.9円 1ユーロ = 137.6円  
2006年度為替想定 1ドル = 110.0円 1ユーロ = 135.0円

## 原材料・部品価格のさらなる上昇

想定範囲内にとどめるよう最善の努力をしているが、引き続き強い値上げ圧力を受けており、利益圧迫要因となる恐れがある。

## 海外市場の減速

原油価格上昇等をきっかけとした世界経済の想定以上の減速により、輸出の減少等の悪影響を受ける可能性がある。

# 注記

---

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。